

古河機械金属の強み

国内外の インフラ整備を 支える機械

トンネル掘削現場や土木・建築現場、
鉱山、工場、下水処理場等、
国内外のインフラ整備向けの製品を
製造・販売しています。

- トンネルドリルジャンボ 国内シェア **80%**
- 油圧クローラドリル 国内シェア **65%**
- 油圧ブレーカ 国内シェア **40%**
- ミニクローラクレーン 国内シェア **40%**
- 高純度金属ヒ素 国内シェア **90%**
- 電気銅
- 下水道用汚泥ポンプ 国内シェア **60%**
- ベルトコンベヤ
- 破碎機 国内シェア **15%**
- ユニックキャリア 国内シェア **50%**
- ユニッククレーン 国内シェア **50%**
- 亜酸化銅 国内シェア(製造量) **40%**
- コア・コイル

便利で豊かな 暮らしを 支える素材

古河機械金属グループ創業の
事業である銅をはじめ、
高度情報社会の発展に欠かせない
電子材料や、高品質な化成品を
提供しています。

当社商品のシェアや
活躍シーンについては、
Webサイトに詳しい情報を
掲載しています。

グループシェア一覧
<https://www.furukawakk.co.jp/corporate/share.html>

古河機械金属の活躍シーン
<https://www.furukawakk.co.jp/corporate/about/activity.html>

Webサイト・アニュアルレポートもご参照ください

当社グループは、財務情報である「有価証券報告書」とESG情報である「コーポレート・ガバナンス報告書」「CSR報告書」を結合した株主・投資家向けの出版物として「アニュアルレポート」を作成しています。株主・投資家の皆様にとって必要な情報を網羅しつつ、当社グループの統合的思考や戦略・施策をより正確にご理解いただくためのものです。

当社のWebサイトでは、こうした報告書のほか、決算短信、決算説明会資料等の各種ツールを掲載し、適時・適正に情報を開示しています。
<https://www.furukawakk.co.jp/>



トップインタビュー
2025年ビジョン達成に向けた課題や戦略、当社なりのESG・SDGsへの考え方や取り組みをQ&A形式で紹介。

ROE向上に向けて
資本コストおよび事業ポートフォリオマネジメントの導入等、企業価値向上を図るための当社の取り組みを紹介。

会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO., LTD.

創 業 1875(明治8)年8月
設 立 1918(大正7)年4月
資 本 金 282億818万円
従業員数 2,794名(連結)
本 社 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
(丸の内仲通りビル)
TEL: (03) 3212-6570(代表番号)
TEL: (03) 3212-6561(法務部)

中核事業会社
古河産機システムズ株式会社
古河ロックドリル株式会社
古河ユニック株式会社
古河メタルリソース株式会社
古河電子株式会社
古河ケミカルズ株式会社

会社紹介映像はこちらをご覧ください。
FURUKAWA 140 years
https://www.furukawakk.co.jp/kaikinniku/movie/pv_140-years/



アンケートご協力をお願い

株主の皆様におかれましては、日頃より当社の活動に対するご理解とあたたかいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。当社では、株主の皆様のお声を頂戴し、より良い情報を発信することでIR活動を充実させたいと考えております。Webアンケートを実施させていただいておりますので、是非ご協力をお願いいたします。

<https://reg18.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mgs-lakhqi-f9da38f4000be59a13d47ed72c5eb9ea>



FURUKAWA COMPANY REPORT

第153期中間(第2四半期)の
ご報告 2019年4月1日~2019年9月30日
証券コード:5715



PICK UP! 油圧クローラドリル

岩盤を掘削するため、砕石や鉱山の採掘現場で使用される油圧クローラドリル。正確かつスピーディな掘削技術が評価され、国内で高いシェアを有しています。特集では、油圧クローラドリルの図解や当社の強み、今後のIoT技術の活用について紹介します。

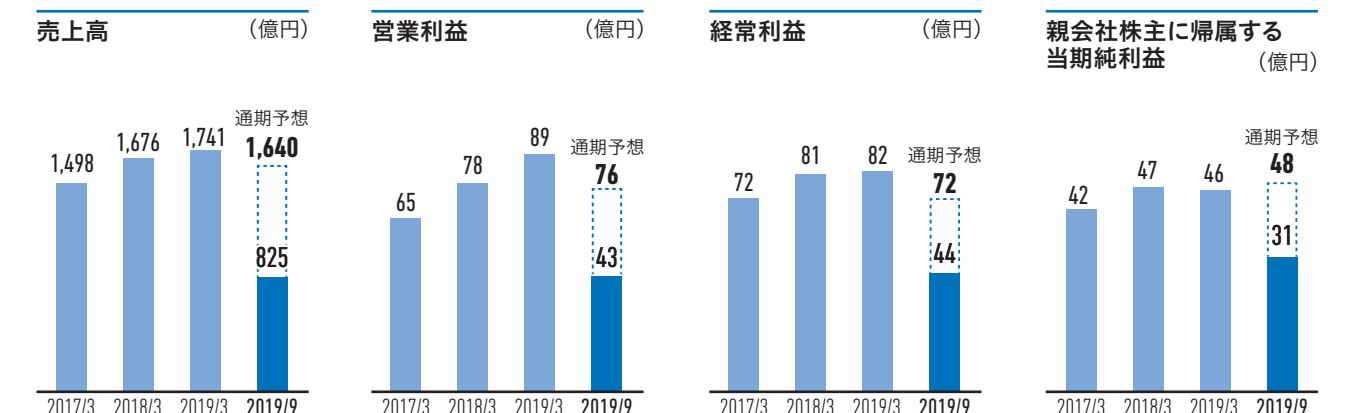
ここがスゴイ!

国内シェア **65%**

100年以上にわたる
開発と
モノづくり

→ 詳しくは特集をご覧ください

ハイライト



PICK UP

特集 古河機械金属の製品と技術

進化を続ける「油圧クローラドリル」

ロックドリル部門の主力製品の一つである油圧クローラドリルは、下向きに穿孔する(岩盤に孔を開ける)自走式さく岩機です。国内ではコンクリートの原材料となる砕石や石灰石の採掘現場で、海外では各種鉱山のほか、整地等のインフラ整備で使用されています。当社は1914年に日本初のさく岩機を開発して以来、さく岩機メーカーとして開発・モノづくりにも挑戦し続けてきました。現在、海外市場環境は悪化し厳しい業績が続いていますが、将来に向け成長の礎を築くべく、培った経験とノウハウによるオンリーワン技術をさらに高めるとともに、IoT技術の活用により、シェア拡大とフロービジネス・ストックビジネスの拡充・強化に努めています。

油圧クローラドリルやその他機械製品の稼働映像はこちらをご覧ください。

社会基盤を支える古河機械金属 インフラ編
https://www.furukawakk.co.jp/kiaikinniku/movie/pv_infrastructure/



油圧ドリフタ

油圧クローラドリルの心臓部となる油圧機器。岩質等に合わせて、打撃・回転・推力・フラッシングを制御し、ビットに力を伝える。

ロッドチェンジャー

ロッドの継ぎし、回収操作を行う装置。

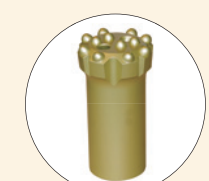


ロッド

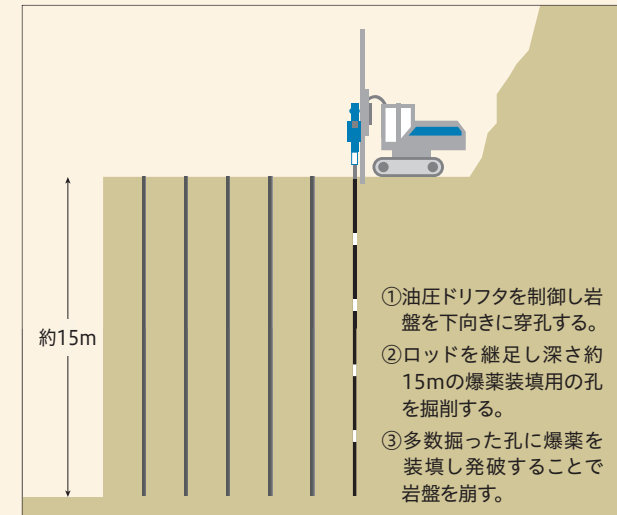
油圧ドリフタとビットをつなぐ鋼棒。

ビット

ロッドの先端に取り付ける、岩を砕くための超硬工具。



油圧クローラドリルを用いた採掘方法

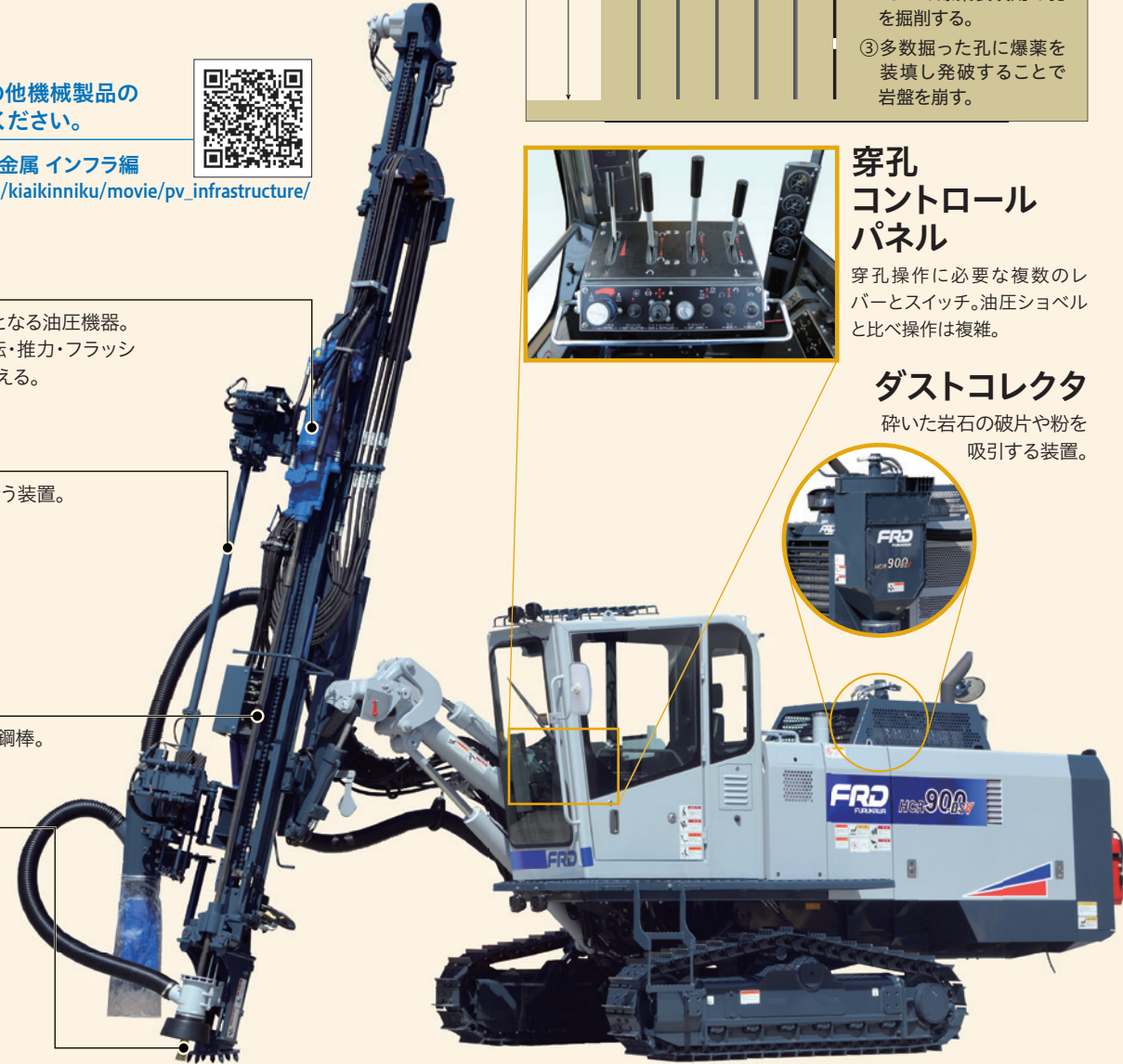


穿孔コントロールパネル

穿孔操作に必要な複数のレバーとスイッチ。油圧ショベルと比べ操作は複雑。

ダストコレクタ

砕いた岩石の破片や粉を吸引する装置。

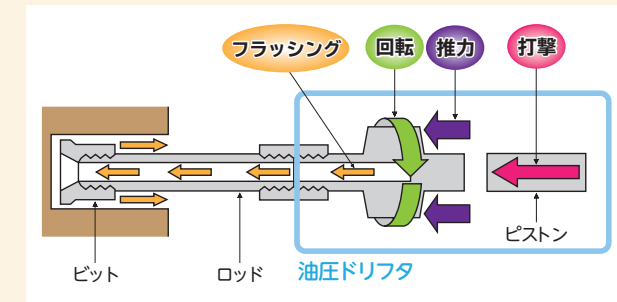


POINT 1 | 経験・技術が結集された「油圧ドリフタ」

POINT 1
 当社の強み

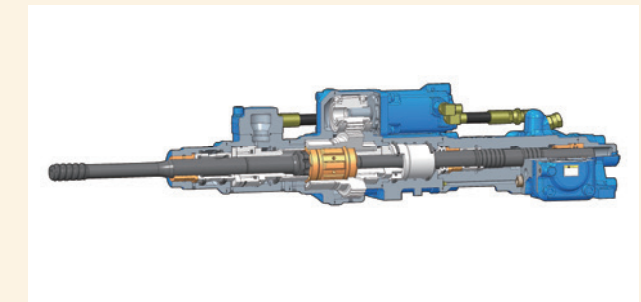
油圧クローラドリルのスピーディかつパワフルな穿孔作業を実現するのが、心臓部である油圧ドリフタです。岩質等に合わせて、1分間あたり80~200回転、2,000~5,000回の打撃を与えて硬い岩盤を砕きます。最適な穿孔を安定して実現するためには、打撃と回転を高速かつ正確に制御させ、かつ高圧・高温下での耐久性も保持した油圧ドリフタが求められます。

当社は、約100点におよぶ油圧ドリフタ部品の特性を見極め、長年培った経験とノウハウから独自の設計



理論を確立しています。また、部品の硬度を上げるための熱処理は外注ではなく自社工場で行っており、機械加工も1/1,000mmの精度で仕上げています。このように、設計・加工・熱処理・組立まで一貫して自社内で生産することで、高品質で高性能な油圧ドリフタの製造を可能にしています。

これこそが当社の強みであり、新興メーカーの追従を許さない、カテゴリートップ・オンリーワンを実現しています。



多数の部品で構成される油圧ドリフタ

POINT 2 | 稼働管理システムによるライフサイクルサポート強化

POINT 2
 IoT技術の活用

油圧クローラドリルは、孔の中での穿孔状態を視覚で確認することができないため、油圧ショベルに比べて操作は格段に難しく、オペレーターの技量や経験によって作業効率が左右されます。こうした課題を解決すべく、2019年度より、国内出荷機で、IoT技術を活用した「稼働管理装置」の標準搭載を開始しました。

この稼働管理装置は、建機業界で実施されている作業時間やエンジン回転数等の簡易な情報把握にとどまらず、穿孔数や穿孔長、打撃時間等、油圧クローラドリル特有の複雑な操作状況を把握するためのもの

です。当社は、そこで得た情報をモニタリング・分析することで、未然に不具合の発生を防ぎ、機械のダウンタイムを減らすとともに、オペレーターの穿孔作業の改善や業務効率の改善につなげていく考えで、現在、さく岩機メーカーならではの仕組みづくりに取り組んでいます。

今後は、海外出荷機においても稼働管理装置を順次搭載することで、海外での課題であるライフサイクルサポートを強化し、将来においてフロービジネス・ストックビジネス両輪での収益拡大に努めていきます。

業績のご報告

新たな成長の礎を構築すべく 全力で取り組んでいます。

株主の皆様には、日頃から多大なるご支援、ご理解を賜り、心より御礼申し上げます。2020年3月期上半期の業績のポイントをご説明します。

代表取締役社長

宮川尚久



機械事業

■産業機械部門 マテリアル機械で中間貯蔵施設(福島県)向け関連設備の売上があったほか、大型プロジェクト案件でも、東京外環自動車道工事向けベルトコンベヤ等複数案件について売上を計上し、増収増益となりました。

■ロックドリル部門 国内では都市再開発等の需要から油圧ブレイカや油圧クローラドリルの出荷が好調を維持した一方、海外では主に北米が低調でその他地域も振るわず、減収減益となりました。

■ユニック部門 国内では規制による駆け込み需要等から主力製品であるユニッククレーンの出荷が好調で、海外では前年同期並みの売上となり、増収増益となりました。

素材事業・その他

金属部門は、電気銅の生産数量が減少し減収減益となりましたが、電気金は増益となりました。電子部門は、高純度金属ヒ素や結晶製品が半導体の在庫調整等により減収減益となりました。化成品部門は、硫酸の販売単価の上昇等により増収増益となりました。不動産事業は、閉館予定の大阪ビルのテナント退出等により減収減益となりました。

業績予想・配当予想

■業績予想 2020年3月期の通期業績予想を下方修正し、売上高は1,640億円(前年同期比5.8%減)、営業利益は76億円(同14.8%減)、経常利益は72億円(同12.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は48億円(同3.1%増)としています。

■配当予想 期初発表通り、中間配当は行わず、期末配当予想を1株当たり50円としています。

事業部門別 売上高 (百万円)

	2019年3月期 第2四半期累計期間	2020年3月期 第2四半期累計期間	対前年同期 増減
機械事業	37,119	40,791	3,672
産業機械部門	7,182	9,961	2,778
ロックドリル部門	15,656	14,405	△1,250
ユニック部門	14,280	16,424	2,144
素材事業	47,090	40,164	△6,925
金属部門	40,670	33,931	△6,739
電子部門	3,283	2,832	△451
化成品部門	3,136	3,401	265
不動産事業	1,630	1,221	△409
その他	418	365	△53
合計	86,258	82,542	△3,716

事業部門別 営業利益 (百万円)

	2019年3月期 第2四半期累計期間	2020年3月期 第2四半期累計期間	対前年同期 増減
機械事業	2,547	3,489	942
産業機械部門	294	979	685
ロックドリル部門	972	388	△583
ユニック部門	1,280	2,120	840
素材事業	751	579	△172
金属部門	269	306	36
電子部門	240	△8	△248
化成品部門	241	281	40
不動産事業	702	374	△327
その他	△62	△48	13
調整額	△32	△34	△2
合計	3,905	4,359	453